

事務事業及び予算の執行実績
(令和5年度 一部、令和6年度を含む)

静岡県立掛川西高等学校

目 次

□□□□□	事務事業の概要	・ ・ ・ ・ ・ 1
□□□□□	事務執行の根拠法令調	・ ・ ・ ・ ・ 24
□□□□□	学校施設の概要	・ ・ ・ ・ ・ 25
□□□□□	在籍生徒調	・ ・ ・ ・ ・ 27
□□□□□	入学志願者及び入学者数調	・ ・ ・ ・ ・ 28
□□□□□	卒業生の動向調	・ ・ ・ ・ ・ 29
□□□□□	生徒の状況	・ ・ ・ ・ ・ 30
□□□□□	授業料収納状況調	・ ・ ・ ・ ・ 31
□□□□□	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	・ ・ ・ ・ ・ 35
□□□□□	預金調	・ ・ ・ ・ ・ 36
□□□□□	郵券等受払調	・ ・ ・ ・ ・ 36
□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	・ ・ ・ ・ ・ 37
□□□□□	委託料に関する調	・ ・ ・ ・ ・ 39
□□□□□	負担金支出調	・ ・ ・ ・ ・ 41
□□□□□	建築工事調	・ ・ ・ ・ ・ 43
□□□□□	公有財産調	・ ・ ・ ・ ・ 45
□□□□□	借地借家等調	・ ・ ・ ・ ・ 46
□□□□□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	・ ・ ・ ・ ・ 46
□□□□□	行政財産貸付・使用許可調	・ ・ ・ ・ ・ 47
□□□□□	主要備品調	・ ・ ・ ・ ・ 49

事務事業の概要

1 概 況

(1) 学校の沿革

明治13年 8月	静岡県立掛川中学校として設置され、佐野城東郡長・岡田良一郎、学校長を兼務する。
13年10月 1日	掛川農学社を校舎にあて授業を開始する。生徒数 30～40名
15年10月14日	県立を廃せられ、佐野城東郡立となる。
17年 7月 1日	郡立を廃せられ、再び静岡県立となる。
19年 3月10日	浜松中学校に併合され、校舎は掛川町に下付、掛川中学校の歴史は一時中断するにいたる。
33年 5月25日	文部大臣より静岡県立掛川中学校開校を認可される。
34年 4月 1日	告示第51号をもって現在地に設置され、静岡県立掛川中学校と称し4月より開校する。
34年 4月15日	入学式を挙げる。第1学年 100名、第2学年 44名（内14名転入学）
34年 6月 1日	校舎完成し開校式を挙げる、それ以来この日をもって開校記念日とする。
36年 1月29日	県告示第22号をもって生徒定員 400名と定められる。
大正 4年 7月 6日	生徒定員 450名に増員される。
12年 4月 1日	学級数を増加して15学級編成とし、生徒定員 750名となる。
昭和17年 4月 1日	学級数を増加して20学級編成とし、生徒定員 1,000名となる。
23年 4月 1日	学制改革により新制高等学校が設置され、静岡県立掛川第一高等学校となる。
	生徒定員 750名となる。
24年 4月 1日	静岡県立掛川西高等学校と改称。普通科定員 750名
	県立高等学校再配置による学区制の設定により掛川町外小笠郡下27ヶ町村が学区となる。
	男女共学制となる。
37年 4月 1日	生徒定員 900名となる。
37年10月13日	北校舎が落成する。
38年 4月 1日	生徒定員 950名となる。
39年 4月 1日	生徒定員 1,100名となる。
40年 4月 1日	生徒定員 1,200名となる。
43年 4月 1日	生徒定員 1,184名となる。
44年 1月22日	体育館兼講堂が落成する。
44年 4月 1日	生徒定員 1,113名となる。
45年 4月 1日	生徒定員 1,035名となる。
48年 2月16日	本館が落成する。
49年 4月 1日	生徒定員 990名となる。

昭和50年 4月 1日	生徒定員 1,035名となる。
51年 4月 1日	生徒定員 1,080名となる。
53年 2月28日	柔剣道場・冀北会館が落成する。
56年 9月29日	北校舎耐震工事が完成する。
57年 4月 1日	生徒定員 1,035名となる。
60年 4月 1日	生徒定員 1,080名となる。
60年12月19日	理数科の設置が決定される。
61年 4月 1日	生徒定員 1,075名となる。(普通科 1,035名・理数科 40名)
61年10月23日	本館耐震工事が完成する。
62年 4月 1日	生徒定員 1,115名となる。(普通科 1,035名・理数科 80名)
63年 4月 1日	生徒定員 1,155名となる。(普通科 1,035名・理数科 120名)
平成元年 4月 1日	生徒定員 1,200名となる。(普通科 1,080名・理数科 120名)
2年 6月 1日	創立90周年記念式典を挙げる。
3年 4月 1日	生徒定員 1,245名となる。(普通科 1,125名・理数科 120名)
4年 4月 1日	生徒定員 1,290名となる。(普通科 1,170名・理数科 120名)
5年 4月 1日	生徒定員 1,317名となる。(普通科 1,197名・理数科 120名)
6年 4月 1日	生徒定員 1,290名となる。(普通科 1,170名・理数科 120名)
7年 4月 1日	生徒定員 1,254名となる。(普通科 1,134名・理数科 120名)
8年 3月25日	弓道場落成する。
8年 4月 1日	生徒定員 1,187名となる。(普通科 1,067名・理数科 120名)
9年 4月 1日	生徒定員 1,169名となる。(普通科 1,049名・理数科 120名)
10年 2月24日	掛川駅西郷線 都市計画街路工事完成
10年 4月 1日	生徒定員 1,160名となる。(普通科 1,040名・理数科 120名)
10年10月12日	昇降所棟・西校舎・用務員棟耐震工事が完成する。
11年 4月 1日	生徒定員 1,200名となる。(普通科 1,080名・理数科 120名)
12年 4月30日	創立百周年記念館が落成する。
12年 7月27日	創立百周年記念館を寄付受領する。
12年10月21日	創立百周年記念式典を挙げる。
14年 4月 1日	生徒定員 1,160名となる。(普通科 1,040名・理数科 120名)
15年 4月 1日	生徒定員 1,120名となる。(普通科 1,000名・理数科 120名)
16年 4月 1日	生徒定員 1,080名となる。(普通科 960名・理数科 120名)
17年 3月25日	第一体育館・第二体育館耐震補強工事が完成する。
17年 4月 1日	生徒定員 1,040名となる。(普通科 920名・理数科 120名)
18年 4月 1日	生徒定員 1,000名となる。(普通科 880名・理数科 120名)
19年 4月 1日	生徒定員 960名となる。(普通科 840名・理数科 120名)
29年11月 7日	普通教室棟長寿命化改修工事が完成する。
令和2年10月30日	創立百二十周年記念事業を行う。

校務分掌組織表



2 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

中東遠地区の理数科を併置する伝統校として、主体性・協働性・創造性・自己有用感を醸成する先進的な教育活動を通して、社会に貢献し未来を切り拓く人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
本校生徒に育成したい資質・能力として、次の4点を定める。 【主体性】 ・解決困難なことにも怯まず、失敗をしてもそれを生かして、挑戦しようとする ・自分を律するとともに、周囲に流されることなく自ら考え、考えたことを表現したり行動に移したりできる ・物事を自分ごととして真剣に受け止めることができる 【協働性】 ・様々な考えの人と力を合わせ、集団のよりよい方向を目指そうとする ・人を大切に思う優しい心を持ち、人の役に立とうと自分の力を発揮する ・人とのコミュニケーション（あいさつ等）を図り、人から学ぶことで考えを深めようとする 【創造性】 ・習得した知識や技能を活用して、課題を発見し、その解決に向けて価値を創造しようとしてリーダーシップを発揮する ・視野を広げ、自己革新を続けようとする ・未来志向をもちながら、現在の凡事を徹底しようとする 【自己有用感】 ・自分には、自分の良さを認めてくれる人	・授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力を育成するための学び ・ICTの積極的な活用とアクティブ・ラーニングの導入等により、4つの資質・能力を育成する授業を通じた学び ・高いところざしを育むため、計画的・体系的に行われる進路指導による学び ・「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神を育成するための学び ・地域、大学等との連携のもと、4つの資質・能力を育成する探究活動を通じた学び ・豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える学び	・日々の学習に向上心を持って真剣に取り組む生徒 ・地域の課題を自分のこととして捉え、主体的、協働的に学ぼうとする意欲のある生徒 ・部活動や生徒会活動、学校行事等に積極的に取り組み、仲間と協力して、より良い学校生活を送るために努力することができる生徒 ・自分の意見をしっかりと持ち、表現するとともに、相手の気持ちを尊重し、コミュニケーションを図ることができる生徒 ・高いところざしを持ち、将来、自分の力を発揮して社会に貢献しようとする生徒

や場があると思う ・自分は、自分の力を発揮して人や社会の役に立つことができると思う ・自分は、向上し続ける人間だと思う	・4つの資質・能力を育成するためのカリキュラムマネジメントの実施による学び ・安心・安全な学校生活のための保健指導、安全指導による学び	
---	--	--

(3) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成
- イ 高いところざしを育む計画的・体系的な進路指導の推進
- ウ 「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成
- エ 豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える
- オ 4つの資質・能力を育成するカリキュラムマネジメントの実施
- カ 安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底
- キ 学校の実践と成果を積極的に発信
- ク 教員の資質向上を図る研修の推進
- ケ 情報処理システム活用と情報管理
- コ 学習環境の整備と円滑な事務業務の執行
- サ 教職員のワークライフ・バランス

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

令和5年度の取組

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成	A 授業アンケート 2回の実施と「授業がよくわかる」生徒 50%以上 「授業で力がついた実感がとてもある」生徒 40%以上 B 大学入学共通テストの全教科・科目の校内平均点が全国平均点の1割増し以上になる C 測定ツールを通して把握した分析結果・共有内容に基づき指導改善に取り組んだ教員 75%以上 D 1・2年生は、平日午後9時までに家庭学習を開始し、2時間以上、休日4時間以上の学習。部活動引退後の3年生は、平日4時間以上、休日8時間以上の学習 E 部活動終了時間の遵守と帰宅指導の徹底 F 計画的に本格的AL型授業を実施した教員 85%以上	よくわかる 42.3% (R4 46.0%) とてもある 30.9% (R4 35.8%) 19科目中9科目で全国平均点の1割を超えた。(受験者数が30人以下の科目は除く) 72.2% ここ3年間 75%前後に留まっている (R4 72.5% R3 76.4%) 平日2時間以上 56.9% (R4 59.6%) 休日4時間以上 56.4% (R4 60.1%) 部活動ガイドラインは守られており、生徒の下校時間も守られている。 教員 85.2% (R4 80.0% R3 78.2%) 生徒 84.7% (R4 84.5% R3 87.9%) 教員 51.9%	B	昨年度よりも「わかる授業」、「授業で力がついたと実感」の両方について肯定的な回答が減少した。 昨年度に比べ、全国平均点の1割を上回った科目は増加した。センター試験時に比べ、共通テスト対策を意識した問題演習量が増加している。 模試の活用については、各回ともベネッセ担当者を招いて模試分析報告会を実施した。ゆっくり時間をとって検証、分析することが難しい現状はあるが、学力の確認や学習計画の改善、また学問分野を広げるための進路指導には功を奏している。分析をふまえ、大学進学に足る学力の向上に結び付けられる授業の工夫を常に考えたい。 学習時間は4月、9月、1月に調査をしている。調査結果を生徒に返すこと、日頃からの声掛けを中心に生徒の学習時間に対する意識を高めたい。 顧問は、部活動ガイドラインに沿って練習計画を立て、実践をしている。来年度も続けていきたい。 ALを取り入れた授業を実施していると答えた教員は年々増加している。これを継続していきたい。

		英語の授業は、大学入試に足る知識・技能の習得といわゆる「4技能のバランスの取れた授業」の両方を実現するものとなっている。 英語の授業は「読む・聞く・話す・書く」のバランスの取れた、将来役に立つ授業である。 英語の授業では、大学進学に足る学力を身につけることができる 掛川西高校の英語教育は、英語の運用能力の育成と大学進学に足る学力の育成との両方にバランスの取れた内容であると思う	(R4 52.5%) 生徒 78.4% (R4 75.8%) 生徒 83.8% (R4 82.9%) 生徒 75.9% (R4 79.7%) 保護者 66.4% (R4 58.9%)		教職員・生徒・保護者へのアンケート全てにおいて、英語教育に関する項目について 50%以上であり、4技能の育成と大学入試対策を、ある程度バランスよく実施できたことがわかる。模試の過年度平均点偏差値の推移を見ても、一定の高水準(57 前後)を維持できている。 また、年度当初の教科会議で、学年間での指導の方向性を共有し、授業にある程度還元することができた。 今後も、バランスの取れた英語教育を継続して展開し、肯定的な評価を得られるようにしたい。
イ	高いところざしを育む計画的・体系的な進路指導の推進	A 1 年終了時の国立大学希望 9 割程度 B 2 年志望理由書の作成で 9 割以上の生徒が進路目標を明確化 C 大学入学共通テスト 5・6 教科 7	国公立大志望 90.2% (1 年 3 学期進路希望調査統計結果) 「志望理由書」全員提出(長期欠席生徒を除く)。志望理由を文章で表現したり、2 年生の管理職面談等で考えを表明したりすることを通して進路目標を明確化できた。 5(6)教科 7 科目受験 94.7%	A	年間を通して、進路行事に加え、各学年で模試受験前後のワークシートや夢ナビ動画や予備校講師による講演会などタイムリーに進路意識を高める仕掛けを取り入れることで、生徒はより進路意識を高めることができた。 ここ数年で、統一的で計画的なカリキュラムとして整備されてきたとみなせる。 共通テストと私立大の一般選抜の出題形式が異なり、難関国公立大

		科目型の受験割合 90%以上 D 教務、研修、進路課が連携してCT、LHR等を改善し、進路とCT、LHRのつながりを持たせる。 総合的な探究の時間やLHRは、4つの資質・能力を育成するための統一的で計画的なカリキュラムとして整備されている CT（探究活動）は充実している。	教員 83.3% (R4 77.5%) 生徒 83.1% (R4 63.2%)		と難関私立大との受験対策の両立が難しくなっている。 学校評価アンケート結果によると、3年生の進路講演や1、2年生のミニ大学、社会人講座や静大理学部訪問等の進路行事については、8割以上の生徒が進路意識を高めるうえで有意義であると回答している。また、「探究活動の充実」については、特に1年生で上昇している。大学入試においても地域政策や農業分野への志望者数が増えており、学部探究で取り組んだ分野を進路に生かしたいと考える生徒が増えつつあることが考えられる。生徒には、LHRでの進路研究とCTでの活動の結びつきをさらに意識させたい。
ウ	「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成	A 部活動ボランティア活動参加率100% B 開催方法等を工夫し、充実した文化祭を実施する C 探究発表会で50%のグループが提案の検証結果まで報告する D 学校内外で生徒自ら挨拶ができるよう部活動やクラス等で促す E 1年全生徒にスマホに関する調査・分析・講座を実施する F 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒90%以上	部活動ボランティアは、すべての部活動で行われた。 文化祭は一般入場も再開し、生徒会を中心に主体的に活動できた。 まだ探究発表会が実施されていないのはつきりと数字は出ないが、多くのグループが成果物を作成できている。 挨拶を自らする生徒が多い。授業の始業と終わりの挨拶にもつながっていききたい。 1年生にスマホに関する調査、講座を行うことができた。 生徒 94.0% (R4 92.7%) 保護者 65.7% (R4 70.7%)	A	コロナ流行収束後に内容を変える部活動があったが、協力して行うことができた。 生徒会が主体となって取り組むことができた。生徒会と委員会の連携をこれからもさらに深めていきたい。 2年生のみならず1年生も積極的に成果物の作成にチャレンジしている。他の学年やグループの発表を聞くことで、来年度の取り組みが磨き込まれていくと感じられる。 形式的なあいさつではなく、自然に発声できるようこれからも働きかけを行っていく。 調査や講座を行うことができたが、使い方については今後検討していきたい。

エ	豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える	A 地域の要請に応え、イベント参加や地域団体との連携を行う B 「冀北講演会」85%以上「芸術鑑賞会」90%以上の生徒満足度 C 年間貸出冊数の平均を昨年度よりも高める D SHRや学年集会等の機会に人権意識を育む働きかけを行う	地域団体が主催する発表会・座談会等に生徒が参加した。 芸術鑑賞会 84.9% 冀北講演会 2/28 実施 全学年において昨年平均を上回った。 1年は1.4→1.5冊 2年は0.5→1.3冊 3年は0.2→0.3冊 人権意識の向上のために働きかけを行ったが、浸透するまでには至っていない。今後もより積極的に取り組んでいきたい。	A	高校生は忙しいことを理解してもらいながら、今後も地域団体との連携を行っていく。 R4, R3 と比較しても肯定率が上昇した。 「読書会」「図書館だより」「新着本の掲示」「新春かるた会」「図書館報」などの委員会活動、学年・教科からの働きかけを中心に読書活動の更なる充実を図り、図書館の利用促進、貸出冊数の維持向上を目指したい。 人権担当が定期的に文書を発信したが、意識高揚までには至っていない。
オ	4つの資質・能力を育成するカリキュラムマネジメントの実施	A 職員研修会5回（情報セキュリティ、BYOD、探究、カリマネ、防災） B 年間2回の生徒、教師対象アンケートを実施し、資質・能力育成の検証を行う体制を確立する	情報セキュリティ研修をはじめ、総合的な探究の時間についてなど5回の職員研修を実施することができた。 実施できた。	A	来年度も実態に見合った研修を計画的に実施していきたい。
カ	安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底	A 「薬学講座」「健康教育講座」において、しっかり理解した生徒90%以上 B 職員間で情報を共有し、問題の早期発見と早期対応をする。	「違法薬物が身近に迫っていることが理解できた」99.4%、健康教育講座について「内容が理解できた」99.4%であった。 配慮を必要とする生徒については定期的に情報共有を行った。1年生全員面談や心の元氣	A	ほぼ全員の生徒が講座の内容を理解できた。内容については、検討を続けたい。 「相談できる先生がいる」生徒（66.9%）、保護者（71.0%）は学年が進むにつれ、肯定率が上がってきているので、低学年からも相談

		C 地域防災訓練への1・2年生参加率60%以上 D 生徒による交通安全の呼びかけを学期に1回以上行う E 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒90%以上（再掲）	度チェックを実施し、悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努めた。 1・2年生の参加率は5.6% 交通委員（生徒）・PTA役員・教員合同での登校指導を学期に1回ずつ行った。 スマホの使用に関しては、規範意識は薄れてきている。保護者と協力して意識を高めていきたい。		しやすい体制作りや働きかけを行っていく必要がある。教育相談日を、HPだけでなくC-learningなどを使って広報していく。 12月2日深夜にフィリピン付近で発生した大地震により静岡県沿岸部に津波注意報が発令され、訓練が中止された自治体が多かった。 次年度も同様の活動を行っていく。 スマホに関する意識は、教職員、保護者、生徒で大きな幅がある。規範意識は、大人が教えるものであるので、保護者と連携をとっていきたい。
キ	学校の実践と成果を積極的に発信	A 部署ごとに定めたHP担当を中心に更新し、昨年度以上の記事更新数を目指す B 高校入試志願倍率1.1倍以上 C 掛西ラボ参加者40人以上	昨年度以上の更新ができた。 参加者 約40人	A	ICT委員会による、掛西公式NOTEの運用を本格的に実施できた。今後も生徒目線の記事を多く更新していきたい。 文化祭の広報力を活用し、小中学生への門戸を広げる。
ク	教員の資質能力の向上を図る研修の推進	A 各教員の他教員授業参観年間3回以上 B 職員の不祥事や重大ミスを0にする	教員50.0% (R4 60.0%)	B	減少してしまった。来年度は授業参観の呼び掛けをより行っていきたい。 今後もコンプライアンス通信を活用し、定期的に呼びかける。
ケ	情報処理システム活用と情報管理	A 個人情報漏洩等の情報事故0 B ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員75%以上	個人情報漏洩等の情報事故がなかった。 ICTを積極的に活用している 教員79.6%(R4 67.3%) 生徒91.0%(R4 90.1%)	A	ICTを活用する機会が増えるなか、個人情報漏洩等の情報事故を起こさないように日頃から声を掛け合ったり確認したりして、各自の意識を高めていきたい。 ICTを積極的に活用する教員は年々増加している。来年度は全ての学年で生徒が1人1台端末を所持することになるので、研修等を充実させ、ICTを活用した授業が行える教員をより増やしていきたい

		C 情報セキュリティ研修の実施	情報セキュリティに関する研修は4月と11月の2回実施できた。		い。
コ	学習環境の整備と円滑な事務業務の執行	A 校内施設・設備の安全を図っている教職員90%以上	教員98.1%(R4 95.0%) 施設設備の不備に対しては迅速に対応できた。予算措置が必要な案件につき県教育委員会と密に連携し、施設設備の不備による授業への影響、事故等の発生を防ぐことができた。	A	施設設備の不備について事務職員が自ら発見できるよう、技能員と協力して、定期的な施設設備点検を行う。
		B 効果的な予算請求をしている教職員80%以上	教員87.0%(R4 75.0%) 校内の要望を細かく拾うことにより、優先度を見極めた、効率的な予算執行をすることができた。		教職員が効果的な予算要求ができていると実感できるよう、財源及び優先度のつけ方を明確に示していく。
サ	教職員のワークライフ・バランス	A 教職員は、遅くとも平日20時までには帰宅する	部活動ガイドラインを守る顧問は多く、限られた時間の中で工夫した部活動の指導が行われている。 4月から1月まで（長期休暇中を除く）の職員室施錠時刻平均は、20:46	B	顧問は、部活動ガイドラインに沿って練習計画を立て、実践をしている。来年度も続けていきたい。 職員室施錠時刻平均の目標を20:30とすることは、職員間で浸透してきているので、今後も継続していく。

(2) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標

(□囲みは各学年の重点項目、○囲みは各教科の重点項目である)

(C Tは、本校の総合的な探究の時間クリエイティブタイムの略である)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当
ア	授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成	① 教員、生徒とも「授業がしっかりわかる」、「授業で力を付ける」の意識のもと、大学進学に足る学力を育成する。 ③ 「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール（ベネッセ模試、GTEC）を用い、各学年の教科・科目ごとに結果分析を行い、学力形成の現状把握・共有を図り、指導の検証・改善を行う。 ④ 教科内及び教科間の連携を密にした上で、授業とのつながりのある家庭学習課題を設定し、生徒が着実に実行するように指導する。 4 午後7時20分完全下校を奨励し、学習を中心とした生活リズムを確立させる。 ⑤ ICTの活用とアクティブラーニング（以下「AL」と略記）の導入等により、主体性・協働性・創造性・自己有用感を育成する授業を実践する。 ⑦ 授業ごと、定期テストごと、学期当初・末、学年当初・末において、目標設定と振り返りをする機会をつくり、生徒の主体的な学びを促進する（学びのポートフォリオ）。 ⑧ 観点別評価の円滑な実施と検証に努める。	A 授業アンケート2回の実施と「授業がよくわかる」生徒50%以上。「授業で力がついた実感がとてもある」生徒40%以上 B 大学入学共通テストの全教科・科目の校内平均点が全国平均点の1割増し以上になる C 測定ツールを通して把握した分析結果・共有内容に基づき指導改善に取り組んだ教員75%以上 D 1・2年生は、平日午後9時までに家庭学習を開始し、2時間以上、休日4時間以上の学習。 部活動引退後の3年生は、平日4時間以上、休日8時間以上の学習 E 部活動終了時間の遵守と帰宅指導の徹底 F 計画的に本格的AL型授業を実施した教員85%以上	教務 進路 教務 生徒 研修 教務 教務
イ	高いところざしを育む計画的・体系的な進路指導の推進	① 自分の力を発揮して社会に貢献する進路目標を設定させる。 ② 大学及び産業界と連携し、様々な学問・職業領域に触れさせ、知的好奇心を喚起する。併せて進路希望・家庭学習時間・生活実態の各調査を生徒の指導に有効活用する。 ⑤ 模擬試験を学習のペースメーカーとするとともに、徹底活用する（問題の分析、弱点の把握・克服、得点傾向など）。 4 C Tを含む学校教育活動を通じたキャリア教育（進路意識育成）の方策について確立する。 5 2年生におけるC Tのテーマに柔軟性を持たせ、進路と関連付けた探究活動についての研究を行う。	A 1年終了時の国立大学希望9割程度 B 2年志望理由書の作成で9割以上の生徒が進路目標を明確化 C 大学入学共通テスト5・6教科7科目型の受験割合90%以上 D 教務、研修、進路課が連携してC T、LHR等を改善し、進路とC T、LHRのつながりを持たせる。	進路 進路 進路 進路 教務 研修
ウ	「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成	① C T、学校行事、部活動、生徒会活動等を通し、生徒の主体的・協働的活動を促し、自己有用感を育成する。 2 教科、C T、特別活動において主権者意識を高める。 ③ 地域社会や大学との連携のもと、現実の課題の解決のために構築したモデルの検証を行う形のRPDCA型の探究学習を創出し、4つの資質・能力を育成する3年間のC Tプログラムの検証と改善を行う。 4 挨拶、身だしなみ、品位のある態度の育成のため生徒会・生活委員の活動の充実を図る。	A 部活動ボランティア活動参加率100% B 開催方法等を工夫し、充実した文化祭を実施する C 探究発表会で50%のグループが提案の検証結果まで報告する D 学校内外で生徒自ら挨拶ができるよう部活動やクラス等で促す	研修 生徒 教務 研修 生徒 生徒

		⑤ 学校内、学校外でのスマホの使用を自律的にコントロールできるように生徒・保護者に対する働きかけを充実させるとともに、情報モラルを育成する。 ⑥ 生徒が主体的に過ごし、落ち着いた気持ちで始業時刻を迎えるよう、「射懸」の時間の定着を図る。 7 各種コンクール・コンテスト・研究発表等への参加を積極的に勧め、主体性・創造性を育む。	E 1年全生徒にスマホに関する調査・分析・講座を実施する F 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒90%以上	生徒 生徒 研修
エ	豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える	1 部活動への積極的参加を促すとともに、地域社会との接点を持ち、社会貢献への意欲を育てる。 2 「冀北講演会」「芸術鑑賞会」を充実させる。 3 読書を通じて視野を広げ、深い教養と知識、豊かな感性が身に付くよう選書の機会を設け、読書活動の充実と環境整備を図る。 ④ あらゆる教育活動を通して、自他共に人を大切にする心（人権意識）を育む。	A 地域の要請に応え、イベント参加や地域団体との連携を行う B 「冀北講演会」85%以上「芸術鑑賞会」90%以上の生徒満足度 C 年間貸出冊数の平均を昨年度よりも高める D SHRや学年集会等の機会に人権意識を育む働きかけを行う	生徒 総務 図書 生徒
オ	4つの資質・能力を育成するカリキュラムマネジメントの実施	1 カリキュラムマネジメントによる統一的で計画的な学校教育活動を実現し、サイエンス・ハイスクールとしての本校の教育活動の一層の充実を図る。 ② 分掌・学年・教科及び主な学校行事における4つの資質・能力育成計画を作成し、生徒・保護者と共有する。 ③ 生徒の良さに着目した全職員による生徒への声掛けを行い、自己有用感を醸成する。 4 4つの資質・能力育成の実現状況を評価するアンケート調査を継続し、さらなる改善につなげる。	A 職員研修会5回（情報セキュリティ、BYOD、探究、カリマネ、防災） B 年間2回の生徒、教師対象アンケートを実施し、資質・能力育成の検証を行う体制を確立する	研修 教務 生徒 管理職
カ	安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底	1 「保健だより」の定期的発行や薬学講座・健康講座を通して健康安全意識を高める。 2 各種健康診断の事後措置を迅速に行うとともに、精神面でのケアが必要な生徒、アレルギー等により注意を要する生徒に対して個別にきめ細かな指導を行う。 3 ごみの持ち帰りの徹底と清掃活動や安全指導により校内の美化を推進する。 ④ 悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し支援していくため、アンケートを実施したり1年生全員に面談をしたり、関係職員と連携してスクールカウンセラーの効果的活用を図る。 5 マニュアルに対応した効果的な校内防災訓練を実施するとともに、地域防災訓練・防災活動への参加率を高める。 6 スマホ・ネットの適切な使用方法と交通安全に関する意識を高め、安心・安全な教育環境を整える。	A 「薬学講座」「健康教育講座」において、しっかり理解した生徒90%以上 B 職員間で情報を共有し、問題の早期発見と早期対応をする。 C 地域防災訓練への1・2年生参加率60%以上 D 生徒による交通安全の呼びかけを学期に1回以上行う E 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒90%以上（再掲）	保健 保健 保健 教育 相談 総務 生徒
キ	学校の実践と成果を積極的に発信	1 学校HPやSNSの効果的活用、学校説明会、掛西公式NOTE、オープンスクール、中学校訪問等により、本校の教育方針や活動実績等の広報を充実する。 2 「掛西ラボ」を効果的に開催し、本校に魅力を感じる体験を小・中学生に提供する。 3 サイエンス・ハイスクールとしての活動（理数科行事等）の積極的発信を推進する。	A 部署ごとに定めたHP担当を中心に更新し、昨年度以上の記事更新数を目指す B 高校入試志願倍率1.1倍以上 C 掛西ラボ参加者40人以上	管理職 研修 事務 理数科 理数科

ク	教員の資 質能力の 向上を図 る研修の 推進	1 県総合教育センター主催研修、校外研修、講習会等への積極的な参加と参加した研修等の情報を教員間で共有する。 ③ 校内授業公開と授業参観により、授業力の向上と改善に努める。 3 職員会議等で声掛けやミニ研修を行い、不祥事根絶を図る。 4 教職員の心身の健康管理に向けた研修を行う。	A 各教員の他教員授業参観年間3回以上 B 職員の不祥事や重大ミスを0にする	研修 研修 管理職 保健
ケ	情報処理 システム 活用と情 報管理	1 ICTを活用した教育活動の一層の充実及び教職員の情報セキュリティ意識の向上を図る。 2 iPadの授業での効果的活用について研究するとともに、使用ルール等の必要な検討を継続して行い、校内体制を整える。	A 個人情報漏洩等の情報事故0 B ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員80%以上 C 情報セキュリティ研修の実施	教務 研修 生徒
コ	学習環境 の整備と 円滑な事 務業務の 執行	1 校内施設・設備の安全を図り、適切な管理・保全に努める。 2 校内の学習・生活環境の実態を正しく把握し、情報共有を図ることで効率的・効果的な予算執行を行う。	A 校内施設・設備の安全を図っている教職員90%以上 B 効果的な予算請求をしている教職員85%以上	事務 事務
サ	教職員の ワークラ イフ・バ ランス	1 会議資料のデータ化等、効率的に諸会議を実施する。 2 定時退勤日（月曜）は、学校全体で心がけて実施する。 3 部活動の指導時間について、心身の健康面を考え、部活動ガイドラインを守ることを徹底する。 4 時間外等在校時間の管理を行う。 5 部活動の再編について検討する。 6 ICTを活用した効率的な業務を推進する。 7 チーム学校による専門性を活かして役割分担を見直す。	A 教職員は、遅くとも平日20時までには帰宅する B 時間外等在校時間が前年度同月と比べて減少する。 C 公式大会等がない限り、週当たり平日1日以上、土・日1日以上、部活動休養日を遵守する D 行政職員の専門性を活かし、学校教育活動に積極的に関わるような新たな業務にチャレンジする	管理職 管理職 生徒 管理職 生徒 研修 事務

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	<年間の取組報告> ・令和3, 4年度に、4つの資質・能力（主体性・協働性・創造性・自己有用感）を育成する計画を作成し、生徒・保護者との共有を図るなど、カリキュラム・マネジメントを実施し、今年度はその計画に沿って実施しながら検証を行った。 ・4つの資質・能力育成の「核」として、3年間の統一的・系統的新カリキュラムによる総合的な探究の時間「クリエイティブタイム」（以下「CT」と略）及びホームルーム活動（以下「LHR」と略）を実行した。CTでは、大学等専門機関等と連携し、社会課題の解決を図る探究活動（2年次はSDGsを意識、3年次は論文にまとめた）に取り組んだ。LHRでは、目標設定・振り返りの継続による学びのポートフォリオにより、生徒の主体的・自立的学習を促進した。 ・大学受験に足る学力育成とともに、4技能のバランスの取れた育成を図る掛西式英語教育の研究を深め実践した。 ・令和4年度入学生から一人一台端末（iPad）を導入し、生徒連絡等にはC-Learning、授業ではロイロノートを使用することとし、授業での活用方法について教員間で情報交換を行い、授業の充実を図った。 ・本校の文化・学術系部活動と地域の行政や企業・大学等専門機関の連携を行い、社会に開かれる活動や、学術的にレベルの高い活動を創出した。 (1) 「地域と連携し、地域課題を克服する探究」する総合的な探究の時間 令和元年度にカリキュラム・マネジメントとして全職員で作成した生徒に身に付けさせたい4つの資質・能力（主体性・協働性・創造性・自己有用感）の育成を、全ての活動の原則とし、教育活動を行っている。4つの資	(1) 普通科の魅力向上の実現 本校の教育の特徴として、探究活動、ICTを活用した教育活動及びコミュニケーション力を中心とした掛西式英語教育の基本形が完成した。授業内容等に興味があって学校を選択した生徒の割合は、令和5年度入学生5.6%で目標達成できなかったが、63%の生徒が、掛川西高校の教育活動に興味があったと回答している。進学にむけた教科指導だけではなく魅力化を図った。今後は、中学校や地域への広報を進めていきたい。 (2) 「目指す学校像」に向けての進捗 令和4年度のカリキュラム・マネジメント委員会で、探究活動を中心とした教育活動計画が完成した。令和5年度は、その計画に沿って教育活動を行っている。年度末に令和5年度の実施において課題があれば、改善を図っていく。授業での4つの資質・能力の育成については、管理職が全教諭の授業参観をし、助言指導を行った。 (3) 生徒の資質・能力の成長 アンケートから8割以上の生徒が、4つの資質・能力が身に付いていると回答した。今後も生徒の実態に合った教育活動になるよう、改善を図りながら探究活動及び授業を中心に実施していく。 (4) 地域に開かれた教育課程の実現 探究活動では、地域社会と連携を取り、生徒のフィールドワーク先として100か所以上確保し、学校外での学びの場を充実させた。掛川市役所と連携を深め、掛川市政運営の意見として本校生徒の探究活動の成果を求められる機会を求められた。

年度	取組概要	成果及び課題
	質・能力育成の柱として、CT（総合的な探究の時間）を位置づけている。本校のCTは、「地域と連携し、地域課題を克服する探究」を行うことであり、市役所・地元企業・NPOなどの諸団体に協力してもらいながら、講演やフィールドワークなどを行っている。3年間の探究学習の取組は、1年生で探究活動の基礎（テーマ設定、仮説、検証、考察）を学び、2年生で自分自身の興味関心ごとをテーマとして探究活動に取り組み、3年生で2年生での探究活動を論文としてまとめる流れである。このことで、探究活動に不慣れな生徒であっても無理なく探究活動に取り組めるようにしている。 (2) 生徒主体のフィールドワーク 生徒が主体となったフィールドワークの活動である。本活動では、訪問日の調整から、すべて生徒自身で行うこととしているので、生徒は自分事として、事前準備などにも入念に取り組んでいる。学校外の大人からいろいろな学びをするものである。令和5年度は、121か所のフィールドワーク受け入れ先が準備できた。また、2年生は、掛川市や静岡県に留まらず、東京などの企業へzoom等を活用してインタビューを実施するグループも増えてきた。令和5年度から掛川市以外にも地域を広げたが、令和5年度は、zoom等を活用して、掛川市から遠方の静岡県東部や東京など県外企業をフィールドワーク先とするグループも増えてきている。 (3) 探究の悩み相談できるメンター相談窓口 生徒が探究活動を進めていくと少なからず大きな課題が生じ活動が停滞する場面がでてくる。そのような場面で、生徒や教員が課題解消のために相談できる体制も生徒や教員の中から要望が出てきたため、定期的に外部人材を活用した相談体制を構築することができた。具体的には、授業時間内にメンターによる相談窓口を用意し、生徒からの相談を受け付けた。メンターの人選は、連携しているNPO法人しずおか共育ネットにお願いし、社会人又は大学生が対面もしくはzoomで相談に乗ってくれた。コロナ禍もあり、対面だけでな	

年度	取組概要	成果及び課題
	く、オンラインの活用も進んだため、効率的に対応することができるようになった。 (4) 持続可能な探究活動実施体制 探究活動の持続可能な発展を可能にするため、探究活動に積極的に取り組んでいる NPO 法人しずおか共育ネットと提携をした。講演やプログラムへのアドバイスはもちろん、メンター相談の人選にも協力してもらい、生徒たちの自走的な探究活動に上手に伴走してもらっている。また、共育ネットとの連携は、教員たちにとっても、探究の手法や導き方を学ぶ貴重な機会ともなっている。また、公立学校であるため定期的な人事異動は避けられないことから、3年間の CT 指導マニュアルも作成した。毎年度、本マニュアルを元に、生徒の実態や地域等の状況によって、改善していくように考えている。 (5) 外部の発表会の活用 探究活動の成果について、学校外での発表会へ参加し、専門家等から活動への助言や評価をもらうことは生徒への教育効果が高いことから積極的な参加を呼び掛け、マイプロジェクトアワードに 5 組、探究フェスタに 4 組、参加し専門家等から活動へのフィードバックをいただき、より深い探究活動への理解につながった。また、生徒自身が発表会を探し自ら出場し、全国大会に出場することができた。また、2 月 14 日には 1・2 年生 150 チームと理数科の課題研究 10 チームが学校中にポスターを貼り、ポスターセッションを、市役所や一般企業・全県の教員と、多くの方に参加を呼びかけ実施する予定である。多くの参加される方から自分達の探究活動への多くの助言等をいただきたいと考えている。	

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	<年間の取組報告> 昨年度導入した自動採点システム「百問繚乱」が2年目を迎えた。昨年度は解答用紙の読み取りで混雑する場面もあったが、今年度はスムーズにできた。読み取り後のスキャナからのデータ消去を担当課から毎回よびかけ、個人情報の流出を防いだ。 不登校生徒に対する遠隔授業の対応が始まった。 (1) 1年生 CT(総合的な探究の時間) 1学期に探究の基礎を学び、2学期以降に掛川市の課題解決を目指した探究活動を地域と連携して行った。掛川市総合計画を参考に設定した7つのテーマ、「①グローバル（国際）、②文化・芸術・教育、③健康・福祉、④環境・防災・都市づくり、⑤農業・林業、⑥産業振興、⑦観光・シティプロモーション」の中から興味のあるテーマを1つ選び、クラス内で4名程度の班を作り、協働して探	自動採点システムの使用にも慣れ、少しでも業務削減に繋がっているのではないかとと思われる。来年度以降も積極的な活用を推奨したい。 県教育委員会から示された運用指針に沿って、年間欠席日数が30日を超えるところで、生徒保護者へ遠隔授業について説明をした。希望する生徒については、遠隔授業を実施し、登校再開に向け支援した。また、希望しない生徒であっても、登校再開に向け面談やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談を支援した。すぐに復帰する生徒がいる一方で、登校再開できないなど、多様な経過が見られた。生徒が登校再開できるよう校内での運用方法、情報共有等でまだまだ改善の余地がある。また、長期欠席にならないように連続して欠席した生徒に対して、早期に面談するなどの対応を今までよりも手厚く実施していく必要があると考えている。 次年度もこれまでとは異なるケースがありうることを念頭において、教員間で迅速な情報共有を行い、また、他校の取組状況を参考にしながら、本校のやり方を構築していきたい。 総合的な探究の時間は、生徒の主体的・協働的な活動を促し、自己有用感を育成する場になっているという質問に対して、「そう思う」、「ややそう思う」と答えた教員の割合は86.5%であった。 本校のCTは問題解決能力を高めることに役立っているという質問に対して、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒の割合は1年生で83.1%、2年生で68.8%であった。

年度	取組概要	成果及び課題
	究活動を行った。夏休みのフィールドワークは、学校で指定した企業を訪問した。 (2) 2年生でのクラスを解体した CT と修学旅行 2年生の CT では自身の進路や興味・関心に合ったテーマを自由に選び、班はクラスを解体して作り、より興味・関心の合った生徒同士で探究活動を行った。夏休みのフィールドワークは、自分たちで開拓した企業・大学等を訪問した。2月には探究した成果をポスターセッションで発表した。 また、修学旅行では旅行先を九州とし、4つのコースを設定し、自分の行きたいコースを選ばせた。クラスを解体し、選択したコース内で研修班をつくり、事前学習や班別研修を行った。 (3) TTMnet (とおとうみネット) 連絡会 県事業である「行きたい学校づくり推進事業」の「探究学習推進」の掛川磐田地区県立13校の拠点校に指定された。 TTMnet は、掛川磐田地区の探究学習をより充実したものにするため構成したコンソーシアムである。実施内容については、探究学習についての情報共有や研修会等を実施している。また、各学校の連携企業や団体等を共有して、掛川磐田地区全体での高校と地域をつなぐ関係をつくっていかうとしている。	本校生徒に育成したい資質・能力「主体性」「協働性」「創造性」「自己有用感」を具現化するために、CT (探究活動) でも修学旅行でもクラスを解体し、似たような興味・関心を持つ個性が集まり、班活動を通して、一つの成果を形にする体験ができた。学年独自の取組ではあり、次の学年に引き継がれるものではないが、面白い取組であったと思う。 10月にコンソーシアムでの協議会を開催し、各学校での探究活動の取組について報告し、各学校の抱える課題等について協議した。また、各学校間での情報交換及び資料共有ができるようグーグルチャット、グーグルドライブを利用することにした。 また、11月には、県内で探究学習に早くから力を入れている静岡市立高校にコンソーシアム構成校で視察し、取組などの説明を受け、各学校での取組に生かした。

5 教職員について

(1) 令和7年度異動状況

(単位：人)

区分	職名	本務職員					臨時・会計年度任用職員			合計	
		教育職員			行政職員		本務計	臨時的任用職員	非常勤講師		臨時等計
		教頭	教諭	小計	事務長	小計					
転出者		1	6	7	1	1	8			0	8
退職者（任期満了）			1	1		0	1		2	2	3
再任用（転出）			1	1		0	1			0	1
再任用（退職・任期満了）			1	1		0	1			0	1
転入者		1	4	5	1	1	6			0	6
新任			2	2		0	2	1	4	5	7
再任用（転入）			1	1		0	1			0	1
再任用（新任）			2	2		0	2			0	2
差引増減		0	0	0	0	0	0	1	2	3	3

(2) 現員数（令和7年4月1日現在）

(単位：人)

区分	職名	本務職員														
		教育職員							行政職員						本務計	
		校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主幹	主査	主任	主事		小計
男	1	1	1	39				42					1	1	43	
女					13	1	1	1	16	1	1	1	2		5	21
計		1	1	1	52	1	1	1	58	1	1	1	2	1	6	64

※ 再任用教諭 6人

区分	職名	臨時・会計年度任用職員					合計
		臨時的任用職員	非常勤講師	非常勤労務職員	A L T	小計	
男			6	3	1	10	53
女		2	3			5	26
計		2	9	3	1	15	79

(3) 健康管理について(令和5年度・6年度)

ア 生活習慣病(成人病)検診や人間ドック等の検診により、疾病の早期発見と心身の健康保持に努めた。

イ 職員安全衛生委員会を月1回開催した。健康管理医と連携し、職員の健康増進のための方策や職場環境について協議をし、改善した。

ウ 校内での新型コロナウイルス、インフルエンザ等の発生時は、健康管理医に相談し、適切に対応した。

(4) 教職員の研修について

(令和5年度)

ア 研修内容

期 日	研 修 内 容	参加者
4月7日	情報セキュリティ研修 新任職員研修	全職員 新任職員
6月9日	探究活動の意義と生徒との関わり方について(センター定期訪問)	全職員
7月10日	観点別評価について	
8月28日	自動採点システム百問繚乱について 第1回授業アンケート結果と授業改善について	全職員
11月10日	Google Meetの使い方 サーバーの管理について チャットGPTについて	全職員
2月21日	ロイロノートの活用事例紹介 NESのID, GoogleのIDの管理システムの変更について C-ラーニングの出欠管理システムについて(杉村) 資質能力調査結果報告 今年度のCTの振り返りと来年度に向けて	全職員

イ 成果及び課題

- (ア) 本校の総合的な探究の時間の充実・深化のためには、先生方の理解と協力が不可欠であると考え、6月の職員研修では、SBS番組制作プロデューサーの鈴木俊夫氏から探究活動の意義と生徒との関わり方について講演してもらい、先生方からも好評であった。2月の職員研修では、資質能力調査や全体発表会(ポスターセッション)後の生徒アンケートをもとに、全職員で話し合う場を設け、来年度の実施形態について意見を募ることができた。
- (イ) 本校の総合的な探究の時間はここ数年で基盤はできた。一方でマンネリ化や進路との繋がり、2年生の探究内容等、課題は多くある。生徒や先生方の意見も取り入れつつ、生徒にとってより充実・深化した探究活動を目指していきたい。

(令和6年度)

ア 研修内容

期 日	研 修 内 容	参加者
4月4日	新任教職員研修	新任職員
4月9日	情報セキュリティ研修	全職員
6月21日	効果的なICT活用における授業改善（センター定期訪問） ICTを活用した授業実践例の共有 ICTを活用した学びの在り方、生成AI活用研修	全職員
7月9日	教育相談研修（スクール・ソーシャル・ワーカーの機能と連携）	全職員
8月28日	EDIX東京（ICT教育に関する最先端の展示館）参加報告 年次別研修におけるチーム研修報告（ICTを活用した授業実践例） Cラーニングの使い方等の確認とフォルダの整理について	全職員
11月1日	防災研修	全職員
2月20日	R7年度年間行事についての情報共有、新NES端末の活用について 情報セキュリティ研修 秋田高校・秋田南高校視察報告 今年度の総合的な探究の時間の振り返りと来年度に向けて	全職員

イ 成果及び課題

（ア）学校自己評価アンケートにおいて、「私は、授業でICT機器を積極的に活用している」という質問に対し、「そう思う」、「ややそう思う」と答えた教員の割合が86.8%（7月）、94.6%（12月）であった。ICTを活用する教員の割合が徐々に増加してきており、研修の効果もあったと考える。ただし、ICTはあくまで手段であるので、ICTを活用することが目的にならないよう注意していきたい。

（イ）効果的なICTの活用方法については引き続き、教員間で情報共有を図り、授業改善・業務改善につなげていきたい。ICTは便利である一方、セキュリティ面など注意を要さなくてはならない面もあるため、その両側面での研修を充実させていきたい。

6 防災対策について

(1) 基本方針

生徒の安全を第一に、火災予防・地震対策・地域防災を中心に防災機器類の点検、防災管理の徹底を期し、被害を最小限にとどめるよう、事前指導の徹底並びに防災訓練を実施し、万全の体制を確立する。

(2) 訓練内容（令和5年度・6年度）

実施日		訓練内容等
令和5年度	4月10日	・地区別集会（地区の人員確認、帰宅方法・危険個所等）
	6月1日	・突発地震を想定した避難訓練・人員点呼 ・避難経路の確認 ・地区別集会、防災組織の班別打合せ
	8月29日	・水害発生時の垂直避難・人員点呼
令和6年度	4月10日	・地区別集会（地区の人員確認、帰宅方法・危険個所等）
	6月6日	・突発地震を想定した避難訓練・人員点呼 ・避難経路の確認 ・地区別集会、防災組織の班別打合せ
	8月29日	・水害発生時の垂直避難・人員点呼

7 学校開放について

（令和7年1月31日現在）

区分		令和5年度		令和6年度	
施設名	利用種目	利用日数	利用者数	利用日数	利用者数
体育館	剣道	76日	1,817人	38日	935人
	バドミントン	129日	1,794人	116日	1,787人
	ソフトバレー	43日	347人	36日	292人
格技場	柔道	83日	1,531人	98日	1,924人
プール	水泳	0日	0人	12日	560人
計		331日	5,489人	300日	5,498人
電気料実費（年額）		122,214円		103,706円	

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第3条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 高等学校学習指導要領 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 高等学校等就学支援金の支給に関する法律（第6条） 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等就学支援金交付金交付要綱 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第33条） 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱

□□□□□ □

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

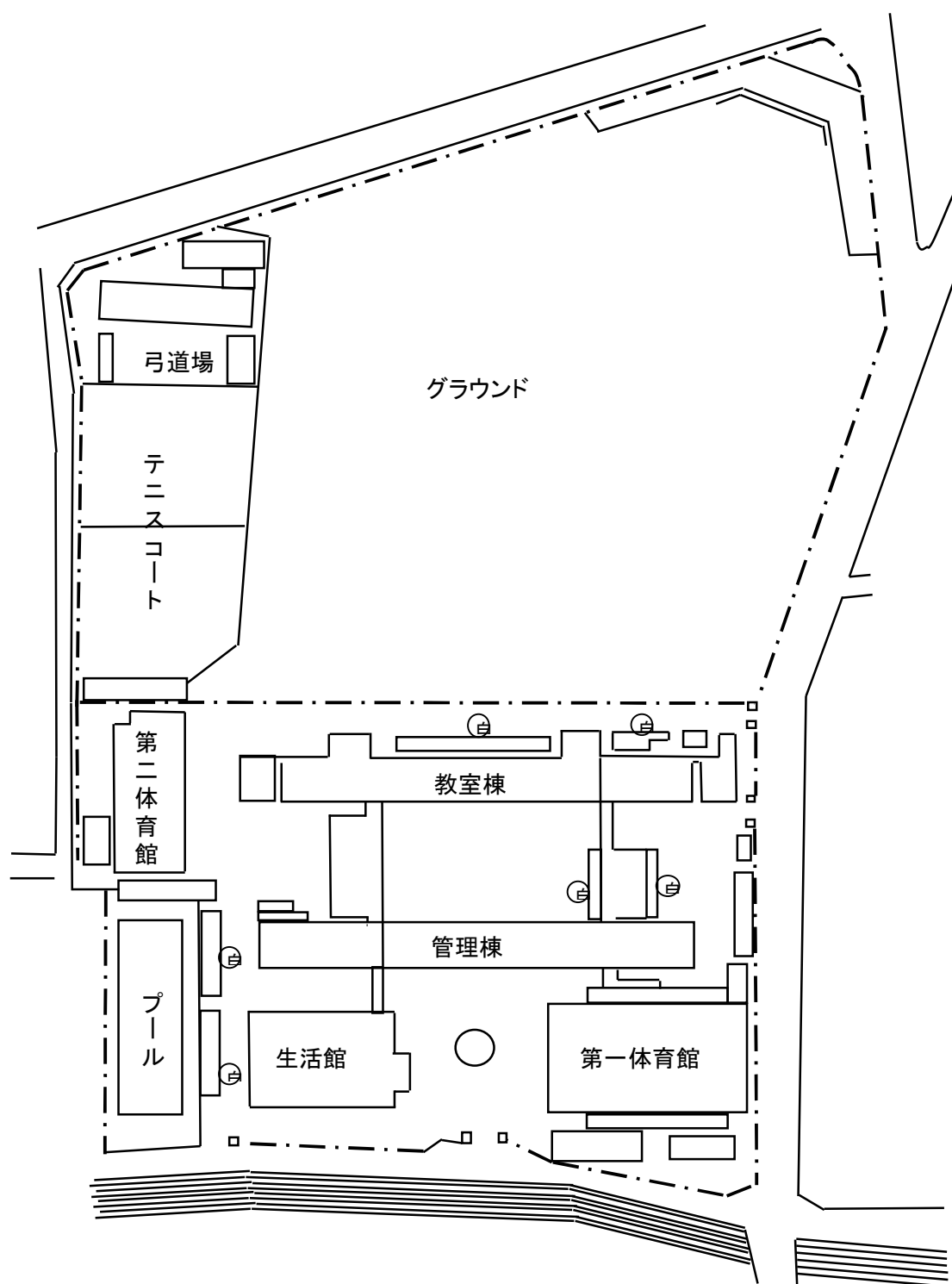
(令和7年1月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学校敷地	38,022.52	38,022.52					
内 訳	校舎敷地	16,953.00	16,953.00				
	運動場敷地	21,069.52	21,069.52				
校 舎	建	<u>2,692.92</u>	<u>2,692.92</u>				
	延	8,087.57	8,087.57				
体 育 館	建	<u>2,464.53</u>	<u>2,464.53</u>				
	延	2,986.76	2,986.76				
武 道 場	建	<u>772.88</u>	<u>772.88</u>				生活館2階
	延	595.00	595.00				
その他の建物	建	<u>1,812.34</u>	<u>1,514.82</u>		<u>297.52</u>		クラブ部室
	延	2,409.75	2,018.71		391.04		雨天練習場 野球部室
生 活 館	建	<u>(772.88)</u>	<u>(772.88)</u>				
	延	614.79	614.79				
プ ー ル	625.00	625.00					50m 8コース

生活館建面積は、武道場建面積の再掲

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	38,022.52 m ²	8,087.57 m ²	21,069.52 m ²
県平均	45,574.48 m ²	9,807.98 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□ □

在 籍 生 徒 調

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

学年	学科別		普 通 科				理 数 科				合 計			
	区分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1 年	入 学 者		280	131	155	286	40	26	16	42	320	157	171	328
		増 加												
		減 少												
	現 在			131	155	286		26	16	42		157	171	328
2 年	入 学 者		280	132	155	287	40	25	16	41	320	157	171	328
		増 加		1		1						1		1
		減 少		1		1						1		1
	2 年時当初			132	155	287		25	16	41		157	171	328
		増 加												
		減 少												
	現 在			132	155	287		25	16	41		157	171	328
3 年	入 学 者		280	139	152	291	40	30	12	42	320	169	164	333
		増 加												
		減 少		1	1	2			1	1		1	2	3
	2 年時当初			138	151	289		30	11	41		168	162	330
		増 加												
		減 少			2	2							2	2
	3 年時当初			138	149	287		30	11	41		168	160	328
		増 加												
		減 少		1	2	3						1	2	3
	現 在			137	147	284		30	11	41		167	158	325
合 計				400	457	857		81	43	124		481	500	981

□□□□□ □

入学志願者及び入学者数調

区 分		3 年度		4 年度		5 年度		6 年度		7 年度	
学 科 別		普通	理数	普通	理数	普通	理数	普通	理数	普通	理数
生徒定員 (A)		280	40	280	40	280	40	280	40	280	40
募集者数 (B)		280	40	280	40	280	40	280	40	280	40
志願者数	男	161	33	128	58	140	38	148	27	158	36
	女	173	35	169	25	168	24	163	18	155	22
	計(C)	334	68	297	83	308	62	311	45	313	58
受検者数	男	159	33	126	57	135	38	147	27	155	36
	女	172	34	167	25	168	24	162	18	153	22
	計(D)	331	67	293	82	303	62	309	45	308	58
合格者数	男	137	19	139	30	132	25	132	26	145	26
	女	156	23	152	12	155	16	155	16	145	16
	計(E)	293	42	291	42	287	41	287	42	290	42
志願倍率 (C)/(B)		1.19	1.70	1.06	2.08	1.10	1.55	1.11	1.13	1.12	1.45
受検倍率 (D)/(B)		1.18	1.68	1.05	2.05	1.08	1.55	1.10	1.13	1.10	1.45
入学者数	男	137	19	139	30	132	25	131	26	145	26
	女	156	23	152	12	155	16	155	16	145	16
	計(F)	293	42	291	42	287	41	286	42	290	42
充 足 率 (F)/(A)		1.05	1.05	1.04	1.05	1.03	1.03	1.02	1.05	1.04	1.05

□□□□□ □

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別			普 通 科			理 数 科			計		
年 度			4 年 度	5 年 度	6 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度
卒 業 生 徒 数			277	283	284	42	41	41	319	324	325
内 訳	(進 学 志 願 者)		(277)	(283)	(283)	(42)	(41)	41	(319)	(324)	(242)
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	265	265	257	38	25	39	303	290	296
		専修・各種学校等	0	1	3	0	0	0	0	1	3
		小 計	265	266	260	38	25	39	303	291	299
	就 職 者		1	0	1	0	0	0	1	0	1
	自 営 者		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	進 学 準 備 者		19	17	22	4	16	2	23	33	24
	そ の 他		1	0	1	0	0	0	1	0	1
合 計			286	283	284	42	41	41	328	324	325

2 求人状況

区 分	4 年度	5 年度	6 年度
就職希望者数	0	0	0
求 人 数	50	50	30
求 人 倍 率	—	—	—

□□□□□ □

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年1月31日現在) (単位:人)

市町村名	掛川市	袋井市	菊川市	その他	合 計
生徒数	400	159	113	309	981
構成比%	40.8	16.2	11.5	31.5	100

(2) 通学方法

(令和7年1月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	バス	天浜線	J R 線	その他	合 計
生徒数	78	545	61	26	250	21	981
構成比%	8.0	55.6	6.2	2.6	25.5	2.1	100

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年1月31日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		18	12		30
男 子	1年	116	33	8	157
	2年	101	41	15	157
	3年	118	31	18	167
	計(A)	335	105	41	481
	構成比%	69.7	21.8	8.5	100
女 子	1年	79	87	5	171
	2年	62	95	14	171
	3年	66	75	17	158
	計(B)	207	257	36	500
	構成比%	41.4	51.4	7.2	100
合 計	(A+B)	542	362	77	981
	構成比%	55.3	36.9	7.8	100

□□□□□ □

(全日制)

授 業 料 収

期別	月別	調 定 の 状 況							
		1 年		2 年		3 年		計	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額
一期		人	円	人	円	人	円	人	円
	4								
	5								
	6								
	7	117 1	3,474,900 19,800	116	3,445,200	97	2,880,900	331	9,820,800
	8								
	計	118	3,494,700	116	3,445,200	97	2,880,900	331	9,820,800
二期	8								
	9								
	10	127	6,286,500	108	5,346,000	101	4,999,500	336	16,632,000
	11								
	12								
	計	127	6,286,500	108	5,346,000	101	4,999,500	336	16,632,000
三期	12								
	1	127	5,029,200	108	4,276,800	101	3,999,600	336	13,305,600
	2								
	3								
	計	127	5,029,200	108	4,276,800	101	3,999,600	336	13,305,600
合計		372	14,810,400	332	13,068,000	299	11,880,000	1,003	39,758,400

納 状 況 調

(令和6年度) (令和7年1月31日現在)

収 納 の 状 況				異動者等の状況
納期内収納額		納期後 収納額	収入 未済額	
	収納率			
円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額＝ 9,801,000円 (1 年 117人×9,900円× 3 月＝3,474,900円) (2 年 116人×9,900円× 3 月＝3,445,200円) (3 年 97人×9,900円× 3 月＝2,880,900円) B. 収納権利増減 (▲) 額 ＝ 19,800円 <内訳> 1 年 1 人令和 6 年 6 月就学支援金認定 1 人×9,900円× 2 カ月＝19,800円 C. 収納必要額 A+B ＝ 9,820,800円
9,612,900	97.9	0	207,900	
		207,900	0	
9,612,900	97.9	207,900	0	
16,285,500	97.9	0	346,500	
		346,500	0	
16,285,500	97.9	346,500	0	
13,186,800	99.1	0	118,800	
13,186,800	99.1	0	118,800	
39,085,200	98.3	554,400	118,800	D. 収納必要額 ＝ 39,758,400円

□□□□ □

(全日制)

授 業 料 収

期別	月別	調 定 の 状 況							
		1 年		2 年		3 年		計	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額
一期		人	円	人	円	人	円	人	円
	4								
	5								
	6								
	7								
	8	106	3, 148, 200	97 1	2, 880, 900 19, 800	97	2, 880, 900	300 1	8, 910, 000 19, 800
	計	106	3, 148, 200	98	2, 900, 700	97	2, 880, 900	301	8, 929, 800
二期	8								
	9								
	10	117	5, 791, 500	97	4, 801, 500	108	5, 346, 000	322	15, 939, 000
	11								
	12								
	計	117	5, 791, 500	97	4, 801, 500	108	5, 346, 000	322	15, 939, 000
三期	12								
	1	117	4, 633, 200	97	3, 841, 200	108	4, 276, 800	322	12, 751, 200
	2								
	3								
	計	117	4, 633, 200	97	3, 841, 200	108	4, 276, 800	322	12, 751, 200
合計		340	13, 572, 900	292	11, 543, 400	313	12, 503, 700	945	37, 620, 000

納 状 況 調

(令和5年度)

収 納 の 状 況				異動者等の状況
納期内収納額		納期後 収納額	収入 未済額	
	収納率			
円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額＝ 8,910,000円 (1年106人×9,900円×3月＝3,148,200円) (2年 97人×9,900円×3月＝2,880,900円) (3年 97人×9,900円×3月＝2,880,900円)
				B. 収納権利増減(▲)額 ＝ 19,800円
				<内訳> 2年1人令和5年6月家計急変認定 1人×9,900円×2ヵ月=19,800円
				C. 収納必要額 A+B ＝ 8,929,800円
8,721,900	97.7	207,900	0	
8,721,900	97.7	207,900	0	
				A. 期首収納権利発生額＝ 15,939,000円 (1年 117人×9,900円×5月＝5,791,500円) (2年 97人×9,900円×5月＝4,801,500円) (3年 108人×9,900円×5月＝5,346,000円)
				B. 収納権利増減(▲)額 ＝ 0円
15,543,000	97.5	396,000	0	C. 収納必要額 A+B ＝ 15,939,000円
15,543,000	97.5	396,000	0	
				A. 期首収納権利発生額＝ 12,751,200円 (1年 117人×9,900円×4月＝4,633,200円) (2年 97人×9,900円×4月＝3,841,200円) (3年 108人×9,900円×4月＝4,276,800円)
12,672,000	99.4	0	118,800	B. 収納権利増減(▲)額 ＝ 0円
		118,800	0	C. 収納必要額 A+B ＝ 12,751,200円
12,672,000	99.4	118,800	0	
36,936,900	98.2	722,700	0	D. 収納必要額 ＝ 37,620,000円

□□□□□ □

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 5 年度	令和 6 年度 (令和 7 年 1 月 31 日現在)
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	362	0

□□□□□ □

預 金 調

(令和7年1月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 掛川支店	無利息型 普通預金	0054819	静岡県立掛川西高等学校 資金前渡者 大石正佳	0	給与等振込口座 交際費
静岡銀行 掛川支店	無利息型 普通預金	0452899	(自振口) 静岡県立掛川西高等学校 資金前渡者 大石正佳	0	公共料金等 自動振替用口座
残高合計				0	

□□□□□ □

郵 券 等 受 払 調

(令和7年1月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和5年度						令和6年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	該当なし															
計		/		/		/		/		/		/		/		

□□□□□ □

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年度)

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち、令和4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,344,816	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		469,073	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		448,272	
計					2,756,476	2,262,161	0
(14) 工 事 請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		10,395,000	
						0	
						0	
計					5,566,000	10,395,000	0
(16) 公有財産 購入費						0	
						0	
						0	
計					0	0	0
(17) 備 品 購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		1,565,256	
						0	
						0	
計					0	1,565,256	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		79,057,600	
						0	
						0	
計					81,688,900	79,057,600	0
(21) 補償、補填及 び賠償金						0	
						0	
						0	
計					0	0	0

□□□□□ □

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						うち令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,397,616	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	367,077	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	248,436	
計					2,013,129	0
(14) 工 事 請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	
					0	
					0	
計					0	0
(16) 公有財産 購入費					0	
					0	
					0	
計					0	0
(17) 備 品 購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	426,140	
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費	331,100	
					0	
計					757,240	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	76,841,900	
					0	
					0	
計					76,841,900	0
(21) 補償、補填及 び賠償金					0	
					0	
					0	
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和5年度)

整理番号	委託業務名 (事務関係)	受託者	当初設計金額 円	契 約 金 額			契約締結方法	契約期間	支 出 年月日	金 額 円	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変更増減額	計						
1	警備業務委託	綜合警備保障㈱	8,965,440	8,965,440	-	8,965,440	一般	自R1.10.1 至R6.9.30	R5. 5.31 R5. 6.30 R5. 7.31 R5. 8.31 R5. 9.29 R5.10.31 R5.11.30 R5.12.27 R6. 1.31 R6. 2.29 R6. 3.29 R6. 4.30 小計	(6,275,808) 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 1,793,088	掛川東高 掛川西高 掛川工業高 小笠高 池新田高 横須賀高 掛川特支 掛川特支 御前崎分校 の夜間等 警備	R1長期
2	産業廃棄物処理業務	サリ環境整備㈱	31,570	31,570	-	31,570	随契	自R5.5.26 至R5.6.30	R5.6.21	31,570	産業廃棄物処理 (混合ｺﾞﾐ)	随契1号 (少額)
3	産業廃棄物処理業務 (薬品)	㈱大洋サービス	63,800	53,350	-	53,350	随契	自R5.9.22 至R6.2.29	R5.11.30	53,350	産業廃棄物処理 (薬品)	随契1号 (少額)
4	一般廃棄物処理業務	小関建設㈱	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	-	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	随契	自R5.12.1 至R6.1.31	R5.12.27	33,220	刈草・枝葉等 処分	随契1号 (少額) 単価契約
5	産業廃棄物処理業務	サリ環境整備㈱	93,500	93,500	-	93,500	随契	自R5.9.8 至R6.2.29	R6.1.5	93,500	産業廃棄物処理 (混合ｺﾞﾐ)	随契1号 (少額)
6	産業廃棄物処理業務 (蛍光灯・乾電池)	㈱ホクセイ	36,223	36,223	-	36,223	随契	自R5.11.20 至R6.3.29	R6.4.26	36,223	産業廃棄物処理 (蛍光灯・乾電池)	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物処理業務	サリ環境整備㈱	93,500	93,500	-	93,500	随契	自R5.12.4 至R6.3.29	R6.2.22	93,500	産業廃棄物処理 (混合ｺﾞﾐ)	随契1号 (少額)
8	産業廃棄物処理業務 (薬品)	㈱大洋サービス	62,370	62,370	-	62,370	随契	自R5.12.25 至R6.3.29	R6.2.22	62,370	産業廃棄物処理 (薬品)	随契1号 (少額)
9	産業廃棄物処理業務	サリ環境整備㈱	65,340	65,340	-	65,340	随契	自R6.1.19 至R6.3.29	R6.2.22	65,340	産業廃棄物処理 (混合ｺﾞﾐ)	随契1号 (少額)
	合計	9 件								2,262,161		
※												
1	消防用設備等 保守点検業務	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		6,017,000	-	6,017,000		自R5.4.1 至R6.3.31			掛川地区8校の 消防用設備保守 点検業務	掛川東高校
2	水泳プール浄 化装置保守点 検業務	清化工業㈱		330,000	-	330,000		自R5.4.5 至R5.12.28			掛川地区7校の プール浄化装置 保守点検業務	横須賀高校
3	自家用電気工 作物保安管理 業務	遠鉄アシス ト㈱		2,550,240	-	2,550,240		自R5.4.1 至R6.3.31			掛川地区7校の 自家用電気工作 物保安管理業務	掛川工業 高校
4	可燃物収集・ 運搬及び処理 業務	中遠環境保 全㈱		収集運搬 1,980円/回 処分料 16.5円/kg	-	収集運搬 1,980円/回 処分料 16.5円/kg		自R5.4.7 至R6.3.29			掛川地区5校の 可燃物収集・運 搬及び処理業務	掛川工業 高校
5	建築基準法第 12条に基づく 定期点検業務	福田一級建 築士事務所 福田光宏		2,475,000	-	2,475,000		自R5.9.6 至R5.12.15			掛川菊川地区8 校の建築基準法 の施設定期点検 業務	池新田高校
	合計	5 件										

□□□□□ □

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 警備業務委託	総合警備保障㈱	円 8,965,440	円 8,965,440	円 -	円 8,965,440	一般	自R1.10.1 至R6.9.30	R6. 5.31 R6. 6.28 R6. 7.31 R6. 8.30 R6. 9.30 R6.10.31 小計	円 (8,068,896) 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 149,424 896,544	掛川東高 掛川西高 掛川工業高 小笠高 池新田高 横須賀高 掛川特支 掛川特支 御前崎分校 の夜間等 警備	R1長期
2	警備業務委託	総合警備保障㈱	11,088,000	10,021,440	-	10,021,440	一般	自R6.10.1 至R11.9.30	R6.11.29 R6.12.26 R7. 1.31 小計	167,024 167,024 167,024 501,072	掛川東高 掛川西高 掛川工業高 小笠高 池新田高 横須賀高 掛川特支 掛川特支 御前崎分校 の夜間等 警備	R6長期
3	可燃物収集・運搬及び処理業務	中遠環境保全㈱	高校 収集運搬 2,200円/回 処分料 16.5円/kg 特別支援学校 2,090円/回 処分料 16.5円/kg	高校 収集運搬 2,090円/回 処分料 16.5円/kg 特別支援学校 2,035円/回 処分料 16.5円/kg	-	高校 収集運搬 2,090円/回 処分料 16.5円/kg 特別支援学校 2,035円/回 処分料 16.5円/kg	随契	自R6.4.10 至R7.3.31	R6. 5.31 R6. 6.28 R6. 7.31 R6. 8.30 R6. 9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7. 1.31 小計	50,985 54,450 58,415 52,998 33,555 52,453 55,544 54,895 61,418 474,713	掛川東高 掛川西高 掛川工業高 横須賀高 掛川特支 の可燃物収 集・運搬及び 処理業務	随契1号 (少額) 単価契約
4	産業廃棄物処理業務	㈱ワ環境整備㈱	93,500	93,500	-	93,500	随契	自R6.6.18 至R6.12.27	R6.12.4	93,500	産業廃棄物 処理 (混合ゴミ)	随契1号 (少額)
5	産業廃棄物処理業務 (薬品)	㈱大洋サービス	47,300	47,300	-	47,300	随契	自R6.11.8 至R7.3.28	R7.1.20	47,300	産業廃棄物 処理 (薬品)	随契1号 (少額)
6	産業廃棄物処理業務	㈱ワ環境整備㈱	93,500	93,500	-	93,500	随契	自R6.11.5 至R7.2.28		0	産業廃棄物 処理 (混合ゴミ)	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物処理業務 (蛍光灯・乾電池)	㈱ホクセイ	44,825	44,825	-	44,825	随契	自R6.11.15 至R7.3.28		0	産業廃棄物 処理 (蛍光灯・ 乾電池)	随契1号 (少額)
8	一般廃棄物処理業務	小関建設㈱	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	-	収集運搬 8,800円/回 処分料 33円/kg	随契	自R7.1.14 至R7.3.28		0	刈草・枝葉等 処分	随契1号 (少額) 単価契約
	合計	8件								2,013,129		
備考												
1	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		6,985,000	-	6,985,000		自R6.4.1 至R7.3.31			掛川地区8校の 消防用設備保守 点検業務	掛川東高校
2	水泳プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		330,000	-	330,000		自R6.4.5 至R6.12.27			掛川地区7校の プール浄化装置 保守点検業務	池新田高校
3	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		2,621,520	-	2,621,520		自R6.4.1 至R7.3.31			掛川地区7校の 自家用電気工作 物保安管理業務	掛川工業高校
4	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	福田一級建築士事務所 福田光宏		2,420,000	-	2,420,000		自R6.9.20 至R6.12.27			掛川菊川地区8 校の建築基準法 の施設定期点検 業務	掛川東高校
	合計	4件										

負担金支出調

(令和5年度)

整理 番号	負 担 金 名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月 日
1	全国高等学校長協会第 75回総会・研究協議会 参加費	県高等学校長 協会会長	開催通知	総会・研究協議 会	2,000	5.5.9
2	第62回全国高等学校教 頭・副校長会研究協議 会参加費	株式会社JTBビ ジネストラン スフォーム	開催通知	研究協議会	4,000	5.6.21
3	東海四県高等学校長連 絡協議会総会・研究協 議会参加費	県高等学校長 協会会長	開催通知	総会・研究協議 会	2,000	5.7.11
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 1期分681人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	20,225,700	5.7.31
5	防火管理者講習会受講 料	県立掛川西高 等学校資金前 渡者	開催通知	講習会	8,000	5.8.10
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分1人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	49,500	5.10.31
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分654人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	32,363,100	5.10.31
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 1・2期分1 人分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	遡及認定者に就 学支援金を支出 する	59,400	5.12.27
9	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分1人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	遡及認定者に就 学支援金を支出 する	198,000	6.1.19
10	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 3期分658人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	26,056,800	6.1.31
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 3期分1人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	39,600	6.1.31
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2・3期分1 人分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	遡及認定者に就 学支援金を支出 する	49,500	6.2.9
計		12 件			79,057,600	

負担金支出調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月 日
1	全国高等学校長協会第 76回総会・研究協議会 参加費	県高等学校長 協会会長	開催通知	総会・研究協議 会	4,000	6.4.30
2	東海四県高等学校長生 徒指導連絡協議会参加 費	県高等学校長 協会生徒指導 専門委員会委 員長	開催通知	連絡協議会	2,000	6.7.9
3	東海四県高等学校長連 絡協議会総会・研究協 議会参加費	県高等学校長 協会会長	開催通知	総会・研究協議 会	2,000	6.7.10
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 1期分654人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	19,404,000	6.7.31
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分646人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	31,967,100	6.10.31
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分1人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	49,500	6.10.31
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 2期分1人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	転学者に係る公 金振替済の就学 支援金について 戻入振替	△9,900	6.11.8
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学 校授業料（第 3期分642人 分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	25,423,200	7.1.31
計		8 件			76,841,900	

□□□□□ □

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当 初 額	変更増減額	計	
1	教育管理費	令和5年度静岡県立掛川西高等学校生徒昇降口棟進路指導室空調装置更新工事	掛川市城西地内	2,332,000	2,310,000		2,310,000	随契
2	教育管理費	令和5年度静岡県立掛川西高等学校プールろ過装置更新工事	掛川市城西地内	7,370,000	7,095,000		7,095,000	指名
3	教育管理費	令和5年度静岡県立掛川西高等学校第二体育館二階入口扉更新工事	掛川市城西地内	1,023,000	990,000		990,000	随契
		計	3 件	10,725,000	10,395,000	-	10,395,000	

整理 番号	予算科目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当 初 額	変更増減額	計	
1	教育管理費	令和6年度静岡県立掛川西高等学校プール循環ろ過装置修繕工事	掛川市城西地内	2,607,000	2,497,000		2,497,000	指名
		計	1 件	2,607,000	2,497,000	0	2,497,000	
参考								
1	教育管理費	令和6年度掛川西高等学校体育館照明改修他工事	掛川市城西地内他	29,293,000	27,346,000		27,346,000	一般
参考								
2	教育管理費	令和6年度掛川西高等学校グラウンドバックネット修繕工事	掛川市城西地内	52,338,000	48,210,800	3,531,000	51,741,800	一般
		計	2 件	81,631,000	75,556,800	3,531,000	79,087,800	

事 調

(令和5年度)

受注者	着 手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財 産台帳	摘要
株式会社 浅岡工業	R5. 6. 26 R5. 12. 28	2, 310, 000	進路指導室空調装置更新工事 冷暖房空調機器 床置型 1組 冷媒管ラッキング工事 11m 室内外渡配線工事 11m 転倒防止架台設置 1式 電源接続、切離し工事 1式 既存空調機器・冷媒管・SUSラッキング ・室内外渡配線・ドレン管撤去 冷媒ガス回収破壊処理、撤去品運搬処分 1式	済	令達年月日 R5. 6. 13 随契1号 (少額) 最終支払年月日 R6. 1. 15
清化工業 株式会社	R5. 12. 12 R6. 3. 29	7, 095, 000	プールろ過装置更新工事 プールろ過装置取替工事 1式 ろ過装置取替1式、セラミックろ材 830ℓ 砂・砂利4, 505ℓ 既設ろ過装置撤去処分工事 1式 新規ろ過装置搬入据付工事 1式 ろ過装置搬入・据付 ろ材充填 ろ過装置画面塗装	済	令達年月日 R5. 11. 22 最終支払年月日 R6. 4. 22
戸塚建設 株式会社	R6. 1. 26 R6. 3. 29	990, 000	第二体育館二階入口扉更新工事 一枚戸から二枚引込戸に更新 1ヶ所 二枚引込戸 SOP塗装 錆止め1回、 SOP2回	済	令達年月日 R6. 1. 15 随契1号 (少額) 最終支払年月日 R6. 4. 17
		10, 395, 000			

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

受注者	着 手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有財 産台帳	摘要
清化工業 株式会社	R6. 12. 11 R7. 3. 28		プール循環ろ過装置修繕工事 プールろ過装置四方弁・三方弁を五方弁 に取替 循環ポンプ更新 機器のみ更新で配管・配線を既設再利用	予	令達年月日 R6. 11. 27
有限会社 中上電工 社	R6. 6. 7 R6. 9. 27	27, 346, 000	掛川西高等学校 体育館照明42台(安定器、昇降装 置等の撤去含む)のLED化改修 掛川工業高等学校 体育館照明31台(安定器、昇降装 置等の撤去含む)のLED化改修 上記に係る電気設備工事一式	済	本庁経理 設備課
株式会社 金田組	R6. 10. 1 R7. 2. 20	51, 741, 800	グラウンドバックネット修繕工事 防球ネット張替え1, 618㎡ 防護マット取替え45㎡ 鉄骨部塗装等	予	本庁経理 袋井土木事務所
		79, 087, 800			

□□□□□ □

公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日 現 在		摘要
	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	
行政財産		千円 2,156,232		千円 51,662		千円 34,168		千円 2,173,726	
土 地	m ² 38,022.52	1,945,502					m ² 38,022.52	1,945,502	
立木竹	本 88	2,362					本 88	2,362	
建 物	m ² 7,557.43 14,407.01	121,972				17,034	m ² 7,557.43 14,407.01	104,938	
工作物	個 67	86,396	5	51,662		17,134	個 72	120,924	
普通財産		0						0	
公有財産に 準ずるもの		131						131	
電話加入権	件 6	131					件 6	131	

□□□□□ □

公 有 財 産 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

区 分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年1月31日 現 在		摘要
	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	
行政財産		千円 2,173,726		千円 26,348		千円 4,222		千円 2,195,852	
土 地	m ² 38,022.52	1,945,502					m ² 38,022.52	1,945,502	
立木竹	本 88	2,362			1	8	本 87	2,354	
建 物	m ² 7,557.43 14,407.01	104,938					m ² 7,557.43 14,407.01	104,938	
工作物	個 72	120,924	6	26,348	1	4,214	個 77	143,058	
公有財産に 準ずるもの		131		0		0		131	
電話加入権	件 6	131					件 6	131	

□□□□ □

借 地 借 家 等 調

(令和 6 年度)
(令和 7 年 1 月 31 日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所 在 地	地 目		数量 又は 面積	借 料		契 約 期 間	所有者又は 契約者 氏 名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	雑屋建	掛川市城西 1-1-6	R C	2 F	㎡ 121.52 215.04	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	クラブ部室
2	建物	雑屋建	掛川市城西 1-1-6	S	1 F	177.92 177.92	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 9. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	多目的雨天 練習場
計						299.44 392.96					
3	工作 物	冷暖房 装置	掛川市城西 1-1-6	—	—	1 個	—	237,046	自R3. 7. 1 至R16. 6. 30	三井住友ファ イナンス& リース株式会 社	普通教室空 調
4	工作 物	雑工作 物	掛川市城西 1-1-6	—	—	294.70	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	全天候型走 路
5	工作 物	雑工作 物	掛川市城西 1-1-6	—	—	6.72	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	防球ネット
6	工作 物	その他	掛川市城西 1-1-6	—	—	21.90	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	野球部室等 (屋根)
7	工作 物	雑工作 物	掛川市城西 1-1-6	—	—	42.33	—	無償	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立掛川 西高校 P T A 会長	ダックアウ ト
計						1 個 365.65		237,046			

□□□□ □

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和 6 年度)
(令和 7 年 1 月 31 日現在)

区 分	事業名 又は契 約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
長期 継続 契約	警備業 務委託	警備業務委託 本校ほか7校分 (契約日) R1. 9. 10	円 8,965,440	円 896,544	円 1,793,088	円 1,793,088	円 1,793,088	円 1,793,088	円 896,544
	電子複 写機賃 貸借契 約	電子複写機の 賃貸借 (契約日) 31. 4. 1	5,294,973	1,051,277	1,060,924	1,060,924	1,060,924	1,060,924	

区 分	事業名 又は契 約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
長期 継続 契約	警備業 務委託	警備業務委託 本校ほか7校分 (契約日) R6. 8. 26	円 10,021,440	円 1,002,144	円 2,004,288	円 2,004,288	円 2,004,288	円 2,004,288	円 1,002,144
	電子複 写機賃 貸借契 約	電子複写機の 賃貸借 (契約日) R6. 5. 21	5,146,108	887,260	1,064,712	1,064,712	1,064,712	1,064,712	

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸 付・ 使用許可 目 的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	掛川市 城西 1-1-6	学校敷地	学校敷地	m ² 1.00	—	5,160	自R6. 4. 1 至R7. 3. 31	掛川西高校PTA会長	清涼飲料等自動販売機設置
	建物	事務所建		生徒昇降所・第一体育館	RC 2 F	m ² 3.00					
2	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	本柱 4本 支線 6条	1,500	15,000	自R5. 4. 1 至R8. 3. 31	中部電力パワーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱等敷地
3	〃	〃	〃	〃	〃	本柱 4本 支線 5条	1,500	13,500	自R5. 4. 1 至R10. 3. 31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	〃
4	建物	事務所建	〃	本館	RC 4 F	m ² 0.03	—	免除	自R5. 4. 1 至R10. 3. 31	掛川市長	防災無線受信機等設置
			〃	生活館	RC 2 F	m ² 0.55	—	〃	自R5. 4. 1 至R10. 3. 31	〃	防災無線（携帯型）設置
5	〃	〃	〃	本館	RC 4 F	m ² 0.01	—	〃	自R6. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	測量基準点設置
6	〃	〃	〃	第1体育館	SRC 2 F	m ² 0.71	—	〃	自R6. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	停電時電源切替システム
7	〃	〃	〃	生活館	RC 2 F	m ² 9.89	—	〃	自R5. 4. 1 至R10. 3. 31	〃	非常食・毛布置場
8	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 9.81	—	〃	自R5. 4. 1 至R10. 3. 31	〃	防災資機材置場
9	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 121.52	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	掛川西高校PTA会長	クラブ部室敷地
10	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 294.70	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	全天候型走路敷地
11	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 6.72	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	防球ネット敷地
12	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 21.90	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	野球部室等敷地
13	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 4.66	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	夜間照明設備敷地
14	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 42.33	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	グラウンドダッグアウト敷地
15	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 177.92	—	〃	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	〃	多目的雨天練習場敷地
16	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 9.60	—	〃	自R5. 4. 1 至R8. 3. 31	〃	団体職員執務場所・駐車場
	建物	事務所建		本館	RC 4 F	m ² 3.30					
17	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	m ² 3.91	—	〃	自R2. 4. 1 至R6. 6. 30	〃	視聴覚室空調設備
	建物	事務所建		本館	RC 4 F	m ² 9.51					

□□□□□ □

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸 付・ 使用許可 目 的
				台帳	現況		単 価	年 額			
18	建物	事務所建	掛川市 城西 1-1-6	北校舎 西増築 校舎	R C 3 F	m ² 3.43	—	免除	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	掛川西高校PTA会長	進路資料室空 調設備
19	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 5.27	—	"	自R2. 4. 1 至R6. 6. 30	"	会議室空調設 備
	建物	事務所建		本館等	R C 4 F	m ² 5.19					
20	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 8.40	—	"	自R2. 4. 1 至R7. 3. 31	掛川西高校後援会会長	生活館空調設 備設置
		地下 埋設物		地下埋 設物	学校 敷地	m ² 38.00					
	建物	事務所建		生活館	R C 2 F	m ² 6.76					
21	建物	事務所建	"	生徒昇 降所	R C 2 F	m ² 32.80	—	"	自R6. 4. 1 至R9. 3. 31	掛川西高校PTA会長	パン・弁当等 売店設置
22	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 0.30	—	"	自R5. 4. 1 至R6. 6. 30	"	図書室空調設 備設置
	建物	事務所建		本館	R C 4 F	m ² 6.69					
23	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 2.00	—	449,000	自R4. 4. 1 至R7. 3. 31	コカ・コーラボトラーズジャパ ン(株)バンディング中部日本地 区統括部バンディング浜松支店	清涼飲料自動 販売機設置
24	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 1,000	—	免除	自R3. 4. 1 至R8. 3. 31	掛川西高校PTA会長	中庭の整備
25	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 2.05	—	"	自R3. 4. 1 至R6. 6. 30	"	音楽室空調機 設置
	建物	事務所建		本館	R C 4 F	m ² 2.32					
26	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 14.19	—	"	自R3. 11. 1 至R6. 6. 30	"	特別教室(調 理室外6室) 空調機器設置
	建物	事務所建		本館	R C 4 F	m ² 20.58					
26-2	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	m ² 5.00	—	"	自R3. 11. 1 至R8. 3. 31	"	作法室空調機 設置
	建物	事務所建		本館	R C 4 F	m ² 0.65					
28	土地	学校 敷地	"	学校 敷地	学校 敷地	支線 1条	1,500	1,500	自R5. 1. 26 至R9. 3. 31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電柱等敷地
合 計								484,160			

主 要 備 品 調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	タブレット端末 生徒用40台他	情報教育用 毎日(年間220日)	平成31年3月	3,521,200 ^円
2	03-03	プロジェクター	天吊プロジェクター エプソンEB-960W	情報教育用 毎日(年間220日)	平成31年3月	3,350,592
3	02-02	その他の情報伝 達機器	無線LANアクセスポ イント 集中管理ソフトウ ェア・ハブ 含	授業、情報教育用 毎日(年間220日)	平成30年3月	2,916,108
4	02-02	放送装置	放送調整卓パナ ソニックWL-SA133他	昼時放送、諸連絡、リスニング教育用 毎日(年間220日)	平成17年3月	2,310,000
5	10-05	化学用器具	ドラフトチャンバ ー ダルトン DfV-11AK- 15CF1	化学実験用 2日/週(年間80日)	平成22年2月	2,310,000
6	03-03	映写機用器具	大型電動スクリーン 300インチスクリーン	集会・式典用 2日/月(年間15日)	令和2年1月	1,804,000
7	03-03	プロジェクター	プロジェクター	集会・式典用 2日/月(年間15日)	令和2年4月	1,492,700
8	10-05	生物用器具	バイオ用キャビネット 松本104-35	生物実験用 2日/週(年間80日)	平成20年3月	1,446,690
9	10-05	化学用器具	ドラフトチャン バー KAIHO	化学実験用 2日/週(年間80日)	平成11年3月	981,750
10	10-05	物理用器具	交直電源装置 東京精電	物理実験用 1日/学期(年間3日)	昭和47年3月	940,000
11	03-02	顕微鏡	生物顕微鏡 オリンパスBH2	生物実験用 2日/週(年間80日)	平成3年11月	927,000
12	10-06	教育調理器具	教師用調理実習 台 ダルトンJC	調理実習用 2日/週(年間80日)	平成9年3月	861,080
13	10-06	教育調理器具	生徒用調理実習 台 ダルトンJC	調理実習用 2日/週(年間80日)	平成9年3月	827,090
14	10-06	教育調理器具	生徒用調理実習 台 ダルトンJC	調理実習用 2日/週(年間80日)	平成9年3月	827,090
15	10-06	教育調理器具	生徒用調理実習 台 ダルトンJC	調理実習用 2日/週(年間80日)	平成9年3月	827,090
16	10-06	教育調理器具	生徒用調理実習 台 ダルトンJC	調理実習用 2日/週(年間80日)	平成9年3月	827,090
17	02-01	その他の情報処 理機器	校内LANサー バー一式	情報教育、事務処理、校内外通信用 毎日(年間360日)	平成21年7月	793,800
18	02-01	その他の情報処 理機器	教材用サーバー キャッシュサーバー	教材管理、文書管理等 毎日(年間220日)	平成13年3月	745,500
19	01-04	戸棚	戸棚 ユニット戸棚	文書管理用 毎日(年間220日)	平成2年3月	732,330
20	05-04	遠心分離装置	遠心分離装置 冷却遠心機H-150	生物実験用 3日/月(年間30日)	平成8年3月	656,712

事務事業及び予算の執行実績（別 冊）

静岡県立掛川西高等学校

□□□□□ □

職 員 調

(令和7年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	大石 正佳		□□□	□□□	□□□
2	副校長	岡野 哲也		□□□	□□□	□□□
3	教頭	吉野 友三	保健体育	□□□	□□□	□□□
4	事務長	小嶋 唯起子		□□□	□□□	□□□
5	教諭	宮澤 誠	英語	□□□	□□□	□□□
6	教諭	藤本 和浩	理科	□□□	□□□	□□□
7	教諭	山下 進也	数学	□□□	□□□	□□□
8	教諭	生熊 友博	理科	□□□	□□□	□□□
9	教諭	久保田 浩	数学	□□□	□□□	□□□
10	教諭	吉田 秀行	理科	□□□	□□□	□□□
11	教諭	杉本 清次	地歴公民	□□□	□□□	□□□
12	教諭	中山 敬司	地歴公民	□□□	□□□	□□□
13	教諭	鵜飼 弘史	地歴公民	□□□	□□□	□□□
14	教諭	佐野 正裕	数学	□□□	□□□	□□□
15	教諭	山内 真由美	英語	□□□	□□□	□□□
16	教諭	鬼束 浩子	保健体育	□□□	□□□	□□□
17	教諭	松浦 弘季	数学	□□□	□□□	□□□
18	教諭	福田 れい子	家庭	□□□	□□□	□□□
19	教諭	大橋 雅則	数学	□□□	□□□	□□□
20	教諭	渥美 清	地歴公民	□□□	□□□	□□□
21	教諭	長岡 英昭	情報	□□□	□□□	□□□
22	教諭	大村 生実	国語	□□□	□□□	□□□
23	教諭	松本 ちえみ	英語	□□□	□□□	□□□
24	教諭	紅林 亜寿香	英語	□□□	□□□	□□□
25	教諭	沖田 一郎	理科	□□□	□□□	□□□
26	教諭	佐藤 晃子	国語	□□□	□□□	□□□
27	教諭	和久田 沙織	国語	□□□	□□□	□□□
28	教諭	大石 卓哉	保健体育	□□□	□□□	□□□
29	教諭	楠屋 真行	保健体育	□□□	□□□	□□□
30	教諭	岡澤 寿明	保健体育	□□□	□□□	□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
31	教諭	久保田 博昭	数学	□□□	□□□	□□□
32	教諭	伊藤 泰	数学	□□□	□□□	□□□
33	教諭	杉村 純哉	理科	□□□	□□□	□□□
34	教諭	平出 理恵子	保健体育	□□□	□□□	□□□
35	教諭	薮下 正治	英語	□□□	□□□	□□□
36	教諭	鈴木 秀倫	理科	□□□	□□□	□□□
37	教諭	木村 裕一	地歴公民	□□□	□□□	□□□
38	教諭	土屋 翔一朗	保健体育	□□□	□□□	□□□
39	教諭	高柳 有希	英語	□□□	□□□	□□□
40	教諭	山下 和晃	理科	□□□	□□□	□□□
41	教諭	青木 紀文	国語	□□□	□□□	□□□
42	教諭	藤原 修平	数学	□□□	□□□	□□□
43	教諭	鈴木 宏野	地歴公民	□□□	□□□	□□□
44	教諭	富田 美由紀	国語	□□□	□□□	□□□
45	教諭	松浦 佑耶	理科	□□□	□□□	□□□
46	教諭	杉山 雅梨華	国語	□□□	□□□	□□□
47	教諭	伊東 瑞貴	理科	□□□	□□□	□□□
48	教諭	神村 健吾	国語	□□□	□□□	□□□
49	教諭	山本 裕太郎	地歴公民	□□□	□□□	□□□
50	教諭	堤 大河	英語	□□□	□□□	□□□
51	教諭	伊藤 俊也	地歴公民	□□□	□□□	□□□
52	教諭	鈴木 天大	地歴公民	□□□	□□□	□□□
53	教諭	合田 裕人	外国語	□□□	□□□	□□□
54	教諭	鈴木 早紀	国語	□□□	□□□	□□□
55	教諭	日向 信輔	英語	□□□	□□□	□□□
56	教諭	河原崎 陸	数学	□□□	□□□	□□□
57	養護教諭	成澤 里紗	養護	□□□	□□□	□□□
58	主任実習助手	上垣内 真紀	理科	□□□	□□□	□□□
59	実習助手	齋藤 紗野	理科	□□□	□□□	□□□
60	主幹	遠藤 一穂	管財・会計	□□□	□□□	□□□
61	主査	堰澤 真希	会計	□□□	□□□	□□□
62	主任	辻川 南	庶務・会計	□□□	□□□	□□□
63	主任	市瀬 莉那	庶務・会計	□□□	□□□	□□□
64	主事	洲脇 大智	庶務・会計	□□□	□□□	□□□
平 均 年 数					2年9月	

臨時・非常勤職員等

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	臨時的任用職員	鈴木 あす香	養護	□□□	□□□	□□□
2	臨時的任用職員	小出 幸子	庶務	□□□	□□□	□□□
3	ALT	パブロ バディ	外国語	□□□	□□□	□□□
4	非常勤労務職員	小森 功	用務	□□□	□□□	□□□
5	非常勤労務職員	名倉 史人	用務	□□□	□□□	□□□
6	非常勤労務職員	山田 広幸	用務	□□□	□□□	□□□
7	非常勤講師	浅野 尚子	美術	□□□	□□□	□□□
8	非常勤講師	小川 出	地歴公民	□□□	□□□	□□□
9	非常勤講師	小杉 よし子	家庭	□□□	□□□	□□□
10	非常勤講師	酒井 まゆみ	書道	□□□	□□□	□□□
11	非常勤講師	佐藤 真澄	音楽	□□□	□□□	□□□
12	非常勤講師	高橋 宏彰	英語	□□□	□□□	□□□
13	非常勤講師	田中 大幹	数学	□□□	□□□	□□□
14	非常勤講師	外岡 洋文	数学	□□□	□□□	□□□
15	非常勤講師	廣江 勝	理科	□□□	□□□	□□□
16	学校医	中島 洋	内科	□□□	□□□	□□□
17	学校医	池羽 杏菜	内科	□□□	□□□	□□□
18	学校医	伊東 武志	内科	□□□	□□□	□□□
19	学校医	内山 博英	内科	□□□	□□□	□□□
20	学校医	佐野 克行	内科	□□□	□□□	□□□
21	学校医	山崎 慶介	内科	□□□	□□□	□□□
22	学校医	山本 憲司	眼科	□□□	□□□	□□□
23	学校医	足立 昌彦	耳鼻科	□□□	□□□	□□□
24	学校医	山本 雅司	歯科	□□□	□□□	□□□
25	学校薬剤師	牧野 貴浩	薬剤師	□□□	□□□	□□□

□□□□□ □

職 員 の 年 齢 調 (令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上 30歳未満	11	
30歳以上 40歳未満	17	
40歳以上 50歳未満	11	
50歳以上 56歳未満	9	
56歳以上 61歳未満	10	
61歳以上	6	うち再任用職員6名
計	64	平均年齢43.9歳

□□□□□ □

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 61人
	職員数 62人
受 診 率	98.3 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

ア 自己都合による未受診 1人

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	19(19) 人
D 2		要経過観察	23(23) 人
D 3		医療不要	19(19) 人
区 分 者 計			61(61) 人
未区分者計			3(3) 人
合 計			64(64) 人

(1) 管理区分A～C2該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 1人

イ 新規採用 2人